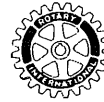
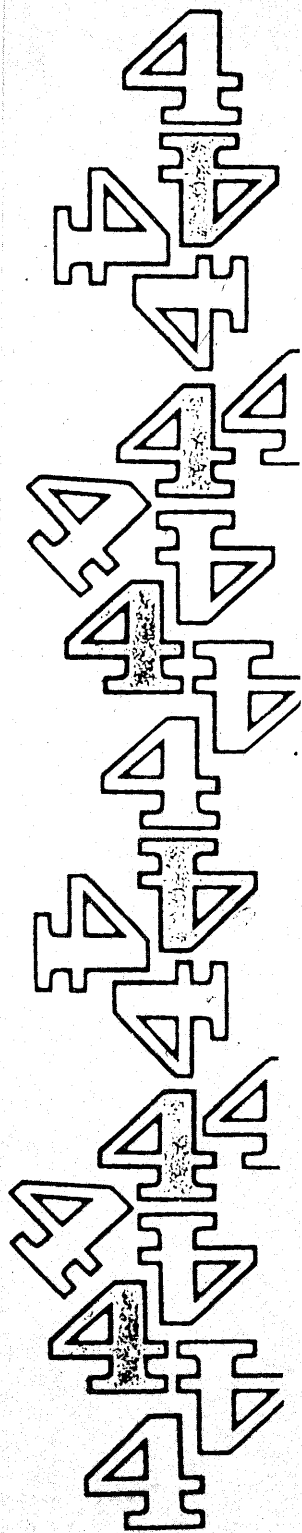


四つのテスト
セミナー



1986・4
長崎ロータリークラブ
四つのテスト委員会



四つのテスト

言行はこれに照らしてから

- 1 真実か どうか
- 2 みんなに公平か
- 3 好意と友情を深めるか
- 4 みんなのためになるか どうか

THE 4-WAY TEST

Of things we think, say or do

- 1) Is it the TRUTH?
- 2) Is it FAIR to all concerned?
- 3) Will it build GOOD WILL and BETTER FRIENDSHIPS?
- 4) Will it be BENEFICIAL to all concerned?

「四つのテスト」セミナーの構成

「四つのテスト」は、誰が、いつ、どんな事情から作ったかを、ロータリアン必携で読む。3-7

長崎ロータリークラブは、作者自筆の「四つのテスト」があるから、とくに深い関心を持っている。

8-10

1985-86年度の平田正穂四つのテスト委員長は、1項目ごとに1回の炉辺会合をあてて、楽しい話し合いのうちに、どんな内容があるかを知ろうとした。その準備資料のうち、とくに参考になると思われるものを引き出してみた。

11-26

この4回の各会合で用意した資料と、出席会員名を記録として残す。

27-39

四つのテスト

人生の指針

1940年以来、多くのロータリアンが、自分の職業、社会、あるいは個人関係でおこる出来事に対して、「四つのテスト」として知られる、わずか36字からなる判断の基準を使用してきました。このテストは、職業奉仕においても、きわめて適切な言葉だとみとめられていますが、ただ四ヶ条のこのかんたんな質問を発するだけで、解答が導きだせるものではありません。

〈四つのテスト〉

言行はこれに照らしてから

- 1) 真実か どうか？
- 2) みんなに公平か？
- 3) 好意と友情を深めるか？
- 4) みんなのためになるか どうか？

世界中のロータリアンがこれを用い、また、外部の人たちとこれをわかちあってきました。教育者、学生、同業者にも、この四つのテストが配付されました。

「四つのテスト」は、規範でも教条でも、誓いの言葉でもなく、自己評価をひきだすためのものなのです。むしろ、すすんで自分を、よりよいものにしていこうという場合の、きっかけになるものです。このテストについては、多くのお説教がなされていますが、テスト自身は説教ではありません。人間一人一人のなかにある善をのぼし、あらゆる文化をもつ人たちに対し、かんたんで実際に役立つ指針をしめそうというのがそのねらいなのです。

「四つのテスト」は、そもそも、どのようにして生まれたのでしょうか。

このテストは、1932年の恐慌のとき、シカゴのロータリアンであり、のちにロータリー創始50周年（1954-55）に、国際ロータリー会長をつとめたハーバート・J・テラーが考えたものです。

シカゴに本拠をおくジュエル・ティー株式会社の代表役員であり、次期社長候補のよび声が高かった1932年、彼はクラブ・アルミニウム製品株式会社に移って、その会社を破産の危機から救って欲しいといわれたのです。このチャレンジにもえて、彼はジュエル社をさり、クラブ・アルミニウムという沈みかけた会社と浮沈をともにする決心をしました。大不況の沈滞のなかで、動揺していたこのクラブ・アルミニウムを再生させる方法を見い出そうと、ハーバートは、会社の全従業員がつかえるような短い倫理の基準はないかと、さがしたのです。

「こたえはすぐにうかび、私はそれをすぐペンでかき記しました。それが四つのテストです。なぜ質問の形でかいたのかと、よくきかれますが、本当は自分でもわかりません。とにかく、こういう形でできたのです」

と彼はのべています。

テラーの会社の4人の部長—ひとりカトリック、つぎはクリスチャン・サイエンス、3人目は正統派ユダヤ教、4人目は長老派—が全員、このテストが、各自の信ずる宗教に合致するだけでなく、会社や個人の生活にも模範になる価値観をあたえてくれるとあって、一致しました。

かんたんなものですが、このテストは、クラブ・アルミニウムという会社が苦境の時期に、いろいろな決定をする際の基本になったのです。当時この会社の負債は40万ドルで、営業資金6,100ドルも銀行借入金でした。すぐに、この会社の広告がテストを基準にして考え直されることになり、「最上」とか「極上」という言葉がのぞかれ製品をありのままに

説明したかんたんな文句におきかえられました。また、同業者に対する悪口も、広告や販売用パンフレットからのぞかれました。

会社の従業員は、このテストを暗記するよういわれ、やがてだんだんに、このテストが会社の業務のあらゆる面の指針となってゆきました。その結果、信頼と好意の雰囲気、ディーラーや顧客や従業員のなかでできてきて、やがてクラブ・アルミニウム社の業績がしだいに好転していきました。そして、つまるところこのテストのおかげである、ということになったのです。1937年までに40万ドルの負債は利子とともに完済されたのです。その後の15年のあいだに、会社は株主に対して100万ドル以上の配当をおこない、その資産は200万ドル近くになりました。

「このテストを暗記して実際につかう人はだれでも、かならずよい結果をえる」と、このテストの創案者はいっていますが、存命中に彼は世界中の人々から、それがいかに自分たちの一生をかえたかという趣旨の手紙を数多くうけとっています。

テストされた「テスト」

「四つのテスト」は、安全運転のプログラム、防火運動、犯罪・麻薬撲滅活動などに刺激をあたえ、非妥協的な労働組合からも支持をうけ、中・高校のレポートの課題にもなっています。そして、この言葉は掲示板に美しくかきだされたり、青銅の額におさめられたり、包装紙や教科書の表紙に印刷されたり、トラックの車体にペンキでかけられたり、映画やラジオ、テレビなどによっても大いに普及されました。また、ロシア語や国際語エスペラントもふくめて100以上の言語に翻訳されています。

当時、国際ロータリーの理事であり、のちに財務長になったシカゴのロータリー・クラブのリチャード・バーナーが、ロータリーとしてこの「テスト」を採用してはどうかと提案したのは1942年のことで、翌1943年1月の国際ロータリーの理事会においてこれを承認したのでした。

「テスト」は、まず、職業奉仕のプログラムのなかにくみ込まれましたが、ロータリーの奉仕の四部門のいずれにおいても、きわめて重要な要素であると考えられています。

「日本は、全世界に先がけてこのテストを実際につかった」と、ハーバート・J・テラーは言っています。1954年に「テスト」をクラブのバナーに最初にのせたのは、大阪ロータリー・クラブでした。福岡県の門司では、生徒たちに「テスト」をいち早く広めるために、教室にポスターをはりました。門司の町では、そのほか、病院や駅、工場などにもこの「テスト」が掲げられています。

一風変わった計画としては、にわか雨にあった通勤客のために駅にそなえておく貸しガサに「四つのテスト」の文句をはじめて印刷した実例があります。これは三重県の上野ロータリー・クラブでした。

ロータリアンは、これまでつねに、若い人たちに深い関心をもってきました。「四つのテスト」を学校内にも紹介することは、ロータリーの理想をひろめるのに効果があることがわかってきました。「四つのテスト」をテーマにつかかって、弁論やレポート、ポスター、あるいは劇やコントなど、賞をあたえるさまざまな分野のコンテストを学校で催して、学校当局とロータリーが協力した実例は、たくさんの記録にのこっています。

「四つのテスト」を学校へ導入したあと、ロータリー・クラブが、さらにこれを自分たちの町——に広め、とくに公共広告を通じて、これをすすめた例はたくさんあります。たとえば、トリニダッドのポート・オブ・スペインの繁華街の十字路には「四つのテスト」の道標がたっていますし、アメリカのペンシルベニア州ピッツバーグは、労働組合との契約のなかに「テスト」が明記されている都市のひとつとなっています。それは、元地区ガバナーのひとりが、組合の役員に対して、彼らと製造業者の間の運搬契約のなかに「テスト」を入れることの価値を、十分になっとくさせたからなのです。

そのうえ「四つのテスト」は、アメリカの議会や、いくつかの州議会、市町村議会などに正式に贈呈され、一人一人の議員にも机上プラークがおくられています。「テスト」は事実、アラスカのジュノーから南アフリカのヨハネスブルグまで、さらにインドのジャムシェドプール、オーストラリアのジュニーまで、いたるところのオフィスの壁やデスクを美しく飾っています。フィリピンでは「四つのテスト」が有用であることを、自分の活動のなかで証明してみせた人たちに、ロータリー・クラブが賞をあたえています。

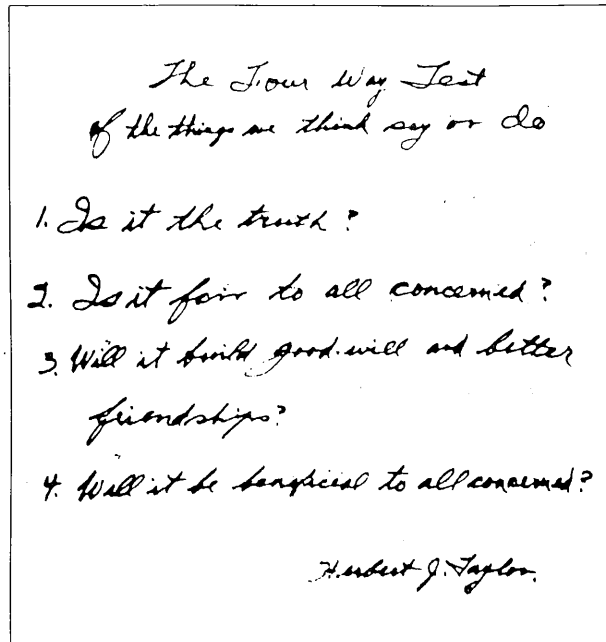
ポスター・ラベル・プラーク、LPレコードなど「四つのテスト」の推進に役立つさまざまなルーツが国際ロータリー事務局と「四つのテスト」協会から入手できるようになっています。後者は、アメリカのアラバマ州モントゴメリーに本部がある非営利団体で、ハーバート・J・テラーが「四つのテスト」をすすめるにあたって、ロータリアン、その他を援助する目的で設立したものです。

なお、さらにくわしい資料をえたい場合は、『四つのテストの適用』(502号J)、および『ロータリー・クラブ会長必携』についている職業奉仕委員会資料をごらんください。



ロータリー必携 第3巻 職業奉仕の表紙 なお、本誌の表紙のデザインは、第1巻総論19ページをアレンジして使用しています。

長崎ロータリークラブと四つのテストとのふれあいをたどる。



四つのテスト提唱者 ハーバート・J・テラー氏自署

1. ハーバート・J・テラー氏夫妻を長崎に迎える 今泉佳三郎

他の三地区の年次大会に臨み、最後の長崎大会にR I 会長代理として出席のため、昭和31年10月23日板付飛行場に着かれた。山口大会副委員長が代表して出迎え、長崎に案内した。大会2日目、26日に行われる、テラー氏への記念品贈呈に引続き、黒川ガバナーの音頭で会衆一同による「四つのテスト」の朗誦を行なうことにプログラムを按配して、テラー氏に対する大会としての心からの敬意を表すことにした。この企ては満場にも大いに受けて堂もゆるがんばかりの大朗誦となり、テラー氏にも非常に喜んでいただき大成功だった。

2. 年次大会と四つのテスト 古屋野宏平

私は来賓接待委員長として山口さんと一緒にやったんですが、その時私が思いつきで、これは是非ひとつ四つのテストの本家であるテラーさんの自書を得たいと、それで今クラブに掲げておる紙を用意して、マジックの筆を持って行って、夜ビーチホテルで書いて戴いた訳です。これが非常な記念になっております。

3. 「四つのテスト」のための例話集 1973・5・1 職業奉仕委員会
昭和47年度会長の思い出 田中直一

72-73年度のR I 会長ロイ・ヒックマン氏のターゲットは
LET'S TAKE A NEW LOOK! もう一度見直そう!
即ちロータリーの原点に返って省察し行動しよう、ということでした。ターゲットに基づき年間プログラムを編成し、各委員会は極めて活発積極的に活動して下さいました。職業奉仕では、メンバー各位の社是、社訓、座右銘等の有意義な編集がなされ、殊に四つのテスト委員長、速見雄吉君のご尽力で見事な文献が出来あがりました。貴重な資料として継承され活用されることを願って止みません。

4. ロータリーの友の友

第1号 1978年1月 雑誌週間に配付 木原憲悟雑誌委員長

ロータリーの友の記事を抜粋して編集。四つのテスト関係は
四つのテスト改訳提案 大阪 塚本義隆
酒道・四つのテスト 柳井 皿田千蔵

ロータリーの友19781月号-1981年3月号の記事を抜粋して編集。
市民の皆様も一緒にどうぞ 長崎クラブの新聞広告の紹介 下記分

5. 四つのテスト新聞広告
53年2月23日長崎新聞
金子三郎四つのテスト
委員長

※市民の皆様も一緒にどうぞ

長崎県 長崎R.C. (クラブ専任役員)

長崎R.C.では一般市民を対象に「四つのテスト」を主題にして、スマートなロータリー広報を展開した。

ロータリー創立記念日にあたる今年2月23日、地元の長崎新聞朝刊の最終ページ下全五段を広告(下の写真)として費し、「よ

昭和53年6月号

6. 会長の思い出 1976-77年度 会長 増田高彦

創立40周年に当り、特別行事の一つとして、ハーバート・テラー氏自筆の「四つのテスト」の複製版を額装にしたのを、木原憲悟委員長らのご努力で当時の全会員に頒布した。



港が見える四海楼で、円卓を囲んでなごやかな炉辺会合に、平田委員長、岩永59年度ガバナー、西村会長、諸谷副会長はじめ出席多数。

1. ロータリーの人々 名誉会員 古屋野 鐘雨

昭和31(1956)年のR I 64地区の第2回地区大会で、来賓接伴委員長として、R I 会長代理ハーバート・J・テラー氏の直筆をクラブに残したいと考え、紙とマジックを用意してホテルのロビーでお願いした処、快く応じられ、夫人も何かと加勢された。またとない記念品であるので、永く保存したいものである。テラー氏をご存知の四つのテストの創唱者ですが、さすがに四つのテストを経て現われる人の言動には全く感銘した。

2. 健康の四つの原則を心がけて

自ら“ニュース(NEWS)”またはこれを訳して“東西南北”の原則と称している。これは

無心であること Nothing

食べること Eating

歩くこと Walking 働くこと Workingでもよいと考えている

ねること Sleeping

というきわめて平凡な事柄にすぎない。健康1973.12月号 No.116より

3. 我が自叙伝 ハーバート・J・テラー 菅野多利雄訳

高校一年の時は、ウエスタン・ユニオン電信電話会社の配達係をやった。そして夜になると毎晩電信技術を勉強した。そして高校2年の時に

は、一人前の電信技師になったのだった。その夏、私はスー連絡駅で、常勤技師が休暇をとったので、代りにダルス・サウスショア・アトランティック鉄道の電信技師として働くことになった。

ある晩、雨がはげしく降る中を貨物列車が入構して来て、今度はマーケットに向かって西の方へと出て行った。そうこうするうち、運転指令員から私のところへ、貨物列車を本線から40マイル行ったところの引き込み線に入れるようにという指令が打電されてきた。この指令は「31指令」と呼ばれ、これには車掌、機関士両者の署名が必要だった。加えてその汽車が発車する前に、この指令書に二人が署名したことを運転指令員に報告する義務が私にはあった。ところで、私は窓の外のなんとも厭な天候を見やりながら31指令書を眺めていた。わざわざ貨物置き場まで雨の中を走って行く必要はないだろうと私は考えた。それで運転指令員に署名をもらいましたと嘘の報告をしてしまったので。

そうして私は汽車の戻ってくるのを待った。私は待った。しかし汽車は戻ってこないのだ。私は雨について脱兎のごとく外へ飛び出した。そうなのだ、汽車は駅に戻って給水することを止めたのだった。乗客を乗せたデトロイトのステートフェヤー行きの列車を通過させるために、この汽車を引き込み線に入れなければならないのだ。結果は、神のお恵みによって大惨事は免れた。

聖書に『決して嘘をついてはいけない』と幾度も述べられている意味が非常によくわかるのである。この雨の晩以来、私が一度も嘘をついたことがないとは言わないが、神はかくの如き劇的な方法で、聖書の中の一句の真実性を私に気付かせて下さったので、神の啓示を得て、私が「四つのテスト」を表わした時、先ず第一に「真実かどうか」という問いを設けるのに、何等特別の努力もいらなかったのである。

4. 神戸ロータリークラブ1950-51年度記録

昭和25年7月1日に始る新年度を前にして、6月24日朝鮮戦争が勃発した。漸く国際的な交歓が復活され、内外人の往来が繁くなって来ていたのがこれが為ばかり途絶えた。直木会長、平島幹事による新年度最初の例会から会場が漸く接收から返還せられたばかりの神戸商工会議所へ移った。地区協議会で伝えられた国際ロータリー新会長アーサー・ラゲー氏の本年度の方針は極めて明快な具体的な五つの目的であった。その2は四つのテストを用いて不正と闘うことである。これは、

1. 真実か嘘はないか。
2. 誰にも公正か、誰かに不公平ではないか。
3. 好意と友情を増すか、敵意と憎悪を招かないか。
4. 全部の為になるか、誰かの不利にならないか。

と云う四つの篩にかけて事業に於ける、また日常における行動を常に反省すると云う運動である。

ロータリー文献の邦訳についてはR Iが「トモ」手島氏にその決定権を与えたので、各種文献が手島知健氏の手で邦訳せられたのであるが、四つのテストの邦訳はロータリアンから公募してきめた。

「四つのテスト…言行はこれに照らしてから

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

後者については多少の異論もあり、フェアが単に公平でいいか、公明正大でなければならぬと云う意見もあるが、とにかく決定権を持つ手島氏によって決められたものであった。

5. ロータリーの金看板 職業奉仕

1972-73年度第366地区職業奉仕委員会

ロータリーとサービスの思想 P.G. 塚本義隆

ロータリーの綱領を見ると、その目的は Ideal of service (サービスの理想) でそれ以外のことはすべてその手段と申せます。ロータリーの言うサービスは、人のためを思う、人のお役に立つことが本質であります。英語では、国際理解のためのサービス

service for international understanding

社会に対するサービス service to community

クラブへのサービス service to club

なのですが、職業奉仕だけがちがっています。

service through business

職業を通じて人さまへのサービスであります。自分の「仕事へのサービス」ではないことを、しっかり把握する必要があると思います。

6. 四つのテスト改訳提案 大阪 塚本義隆 ロータリーの友

フォアウェイ・テストの日本語訳が出来て20年、今日ロータリアンに十分なじまれているので、いまさら改訳でもあるまいという人がありましょう。しかし、両三年前「この日本語訳は正しいか」という疑問を投げかけた私見を「友」誌上で発表して以来、数多くのかたがたから賛意と激励を受けました。なぜ改訳が望ましいのか、その重要な点を列記しますと――

1. これは標語やスローガンや反省ではなく、個人個人が思考言動に当

っての判断の物差しとして利用さるべきものである（原作者の言葉）。
従って語呂や口調の良さのために原文の意味を曲げたり省略することを
許されず、絶対正確な翻訳を必要とする。

1. Four Way Test は単一のテストであって、「四通りに吟味する」
の意である。「四つのテスト」と言えば複数の如くに誤解されるおそれ
がある。四問中の一問がベケでもよいというものではない。

1. FAIR という語は、公平というよりは公明正大、正正堂堂の意味
が強い。

1. GOOD WILL は「好意」というよりも「善意」の方がよい。

1. 原文のthinkおよび二ヵ所にあるconcernedの語が訳文に脱落して
いる。言行の基礎をなすものは心の中の考えであり、最も大切だと原作
者ハーバード・テラーが指摘している。またconcerned（関係のある
者）が原文に含まれているのは、不特定多数の「皆」を対象にしたので
は判断の尺度として利用しにくいことを考慮したためと思われる。ゆえ
に翻訳文にこれを取り入れるべきである。

熱心な数多くの方から寄せられたご意見を参照し、また最近大阪RC
のクラブフォーラムおよび例会上で二回にわたるアンケートの結果をも
織りこんで下記の改訳提案をします。一般会員のご意見をお伺いしたい
と思います。

四通りのテスト

私たちが考え、話し、行なう事について

1. それは真実ですか？
2. 関係の人びとに公正ですか？
3. 善意と厚い友情をもたらすでしょうか？
4. 関係の人びとに有益でしょうか？

7. 「四つのテスト」のための例話集 1973 長崎ロータリークラブ

アメリカの教科書では職業倫理を教える教材が多い。

わしは線路で働いてきた

わしは線路で働いてきた。

長い間、ずうっとさ。

長い長い間、ずうっとさ。

わしは線路で働いてきた。

もう、ずい分前からさ。

汽笛の鳴るのを聞かないかい。

朝は、とても早く起きたもんだ。

駅長さんが、さけぶのを聞かないかい。

“ダイナー、笛をお吹き”てさ。

かなり年輩の線路工夫が、子どもたちに話して聞かせるような調子の歌
である。世間的には恵まれぬ一生であったかもしれぬが、彼は誇りをも
って自分の職業をつとめているのである。

犬養道子さんも、アメリカ滞在中、知り合った女子学生の話として、
「父は線路工夫だった。祖父の資力が足りなくて上級学校に行かれな
かったため、こういう仕事しかみつからなかったのだそうだ。しかし彼は
「職業気質」がまだ生き残っているヨーロッパの人らしく「人命をあず
かる鉄道線路」の仕事を誇りに思い、その仕事を最も忠実に果たすこと
を「出世」と思っていた。「そういう誠実なお父さんを持っていること
が私の誇りなの」と、ジャンヌは言った。と述べているが、こんな職業
を天職と考え、世のためになることを生きがいと考えている職業倫理が
いまなおアメリカは生きている。（唐沢富太郎）

1. 聖書でのべている公平

- (1) サムエル記Ⅱ・8：15 ダビデは公正にイスラエルを治め、だれに対しても公平でした。
- (2) イザヤ書5：7 万軍の主のぶどう畑はイスラエルの家であり、主が喜んでそこに植えられた物は、ユダの人々である。主はこれに公平を望まれたのに、見よ、流血。正義を望まれたのに、見よ、叫び。
- (3) イザヤ書56：1 正義を守り、すべての人に公平であれ。主である神様はこう命じます。
- (4) イザヤ書59：11 われわれは皆くまのようにほえ、はどのようにいたくうめき、公平を望んでも、きたらず、救を望んでも遠くわれわれを離れ去る。
- (5) イザヤ書61：8 主なるわたしは公平を愛し、強奪と邪悪を憎み、真実をもって彼らに報いを与え、彼らと、とこしえの契約を結ぶからである。
- (6) エレミヤ書33：15 その日、その時になるならば、わたしはダビデのために一つの正しい枝を生じさせよう。彼は公平と正義を地に行う。
- (7) エゼキエル書34：16 わたしは、うせたものを尋ね、迷い出たものを引き返し、傷ついたものを包み、弱ったものを強くし、肥えたものと強いものとは、これを監督する。わたしは、公平をもって彼らを養う。
- (8) コロサイ人への手紙4：1 主人たる者は、僕を正しく公平に扱いなさい。あなたがたにも主が天にいますことが、わかっているのだから。

2. “Fair” とは何か 重原久美春 長崎クラブ会員

- 私は英語学者ではありませんので、この言葉の正しい使い方について、権威をもって語る資格は無論ありませんが、この言葉も時と場合によってかなりニュアンスの違った使い方がなされているように身受けられます。
- 経済の分野ではfair tradeということがよく言われます。ここでのfairとは「ルールに従っている (in accordance with rules) 」とオックスフォード英語辞典に定義されたところのものであり、日本語では「公正」という言葉がこれに近いように思われます。因みに第二次大戦後、米国の指導の下で、わが国にFair Trade Commisionというもの が設置されましたが、これは日本語では「公正取引委員会」と称せられています。
- わが国の貿易黒字が累増するにつれて「日本の取引がfairでない、unfairである」といわれることが多くなっておりま す。ここでは日本がルールに従っていないという意味で不公正である、ということ を言っているのでしょうか。確かに、日本の実態をよく理解せず、日本がルールに従わず、不公正な貿易取引をしていると思っ 込んでいる面もあるようです。しかし、経済の分野を離れて極く一般的にはfairという言葉が、日本語の「公正」という概念とややニュアンスの違った用い方をされることがあり、日本の貿易黒字問題についても、こうした一般的な用い方がなされている面もあるように身受けられます。
- すなわち、英語では、「主人が自分の家に一時に沢山のお客さんを招くのは、女中にとってunfairである」といった言い方もします。この場合 unfair とは、接待役の女中の負担が過重になり「弱者にとってかわいそうだ」、「気の毒である」といった気持ちが込められています。

つまり、ここでは、強者、弱者の間の「公平の有無」がfair unfairの対概念とつながっているようです。

貿易問題で、日本がunfairであるということには、経済的に弱い立場にある国への配慮を欠いている、という意味がこめられているようにも見られます。

○ こうしてみますと、四つのテストの第2 Is it fair to all concerned?にも、弱者への配慮がなされているのではないかと、門外漢なりに愚考できるのであります。

3. 海の英語 佐波宣平 ・ 研究社

海運同盟加盟船に対する盟外船をoutsider (アウトサイダー) というのは周知のとおりであるが、このoutsider に相当するものは、反対の表現を用いてinterloper (縄張りのなかに立ち入る者) とも呼ぶ。

東インド貿易航海の独占権をもっていた特許会社東インド会社に対し正式の貿易免許状をもたないで、その貿易航路に侵入したfree trader (自由商人) はinterloperとして歴史上もっとも有名である。

東インド会社船の横暴な独占から不利不便に苦しめられた一般市民が東インド会社船に向かって果敢な活躍をしたアウトサイダのfree traderは当時しばしばfair trader (公正な商人) とも呼ばれ、多大の同情・好意がよせられた。

1. ^{かどの}上遠野寛子さんのこと ベンジャミン・F・サンビクトレス

フィリピン人南方特別留学生27名は1943年7月19日門司に到着した。同地で一夜を過ごしたあと、一行は24時間列車にゆられて東京に着いた。

私(ベンジャミン・サンビクトレス)は本郷寮に一年余滞在し、東横線「中目黒」にあった国際学友会日本語学校で日本語を研修した。当日本語学校の日本語研修はきびしいものであり、このため日本の伝統や習慣を学ぶ時間的余裕や日本人家族と親しむ機会はあまりなかった。日本人の生活、習慣、伝統を学び、できうれば日本人の家庭生活に多少とも親しむということの重要性を認識して、文部省と大東亜省と国際学友会当局は男性のみの寄宿生よりなる寮に、上遠野寛子嬢が派遣されてきた。彼女は寮に到着するとすぐ、早くもホームシックにかかっていた少年の多くのものにとって「お姉さん」となった。

彼女は厳格な武士道の伝統に従って育てられたが、同時に(これは当時においてはきわめて特殊なことであったが)「ヒューマニスト」的教育で有名であった小原国芳氏が校長の成城学園と、さらに全授業が英語でおこなわれる聖心女子学院の外国人学科で学んだ。彼女はその後、青年文化協会主催の海外派遣のための日本語教員コースを終了した。

上遠野先生にとっては、国際学友会寮で外国人学生を教えるという仕事は「海外派遣」への彼女の希望を満たすものであった。東京のこの寮において、彼女はフィリピン、マラヤ、スマトラからの特別留学生に親しく接することができたからである。彼女がわれわれに示した愛情と親切とに対して強い恩義と深い感謝の念をいだいている。彼女はその任務にみごとに成功したといえることができる。これは、われわれの大部分のものがその後日本と自分の属する国とのあいだの友好関係の強化のために努力をつづけているという事実によって明示されている。

白川 静 字統

真(眞) 真とは死者、それはもはや化することのないものであるから、永遠にして真実なるものの意となる。顛てん-は顛死者であるが、そのような非命の死者の怨霊はおそろべき呪霊をもつものであるから、これを慎み、填しずめて 鎮いわい-葬り、その瞋いかり-を鎮めなければならない。それで屋舎を設けてその霊位を設ける。また玉をもってその霊を鎮めることを填てん-という。

この真の字は経籍にほとんど見えず、老子、莊子の書に至ってはじめてみえる。「真人ありて、しかるのち眞知あり」など、存在の根源、その根源に達したものの意に用いるのは、おそらく宗教者の立場においてえられたものであろう。莊子学派は、古い祭司者の伝承の上に立つものであると思われる。真は中国の古代思想が達しえた、最もすぐれた理念の一であるが、のち道教の徒によって著しく世俗的なものとなった。

実(實) 宀は宗廟、貫は貝貨を連ねたものであるから、その貫盈かんえい(みちる)-の意より、充実の意となる。

公 長方形の空圏の上に二直線を左右にする。長方形の空圏は宮室の象。その廷前に、左右に屏障へいしょう-を設けて礼儀を行なう。その式場の平面形が公で、公の初義は公宮。公宮はその氏族の宮廟であり、その祭祀権をもつ公が、またそこに祭られるべき人であった。氏族は共同体的性格をもつものであるから、そこから公共の意となり、官府の意となり、公正とは支配者の論理であり、それは征服を意味する正が正義の意にもちいられるのと同じ。

好 女と子との会意。女を母の形に作り、あるいは子を抱く形に作るものがあって、婦人がその子女を愛好することを示す字である。

友 双のように手をならべた形に作り、おのおの手をもって助ける意。金文には、同僚のものを官友・法友などのようによび、同族の兄弟をいうときには側習ほうゆう-という語を用いる。双の下の日は祝禱を収めた器。その上に双方の手をおくのは、盟誓のときの形式で、いま就任式や婚礼のとき、聖書の上に双方の手をおくのと同じ。同族者として盟誓を行なった者を意味する。

情 性を陽、情を陰とする考えは、漢代性情論に一般的なものであった。のち性を体とし、情をその用とする宋儒の性情論に展開する。礼記に人の七情をあげ、それを学ばずして能くするもの、すなわち本能的なものであるとしている。

益 水と皿とに従うて水が器上に溢れる形。

深 字は火をもって穴中を照らす形で、奥深いところを火で照らし、ものを探す意である。山を測る厚、水を測るを深いという。

白川静氏の字源辞典「字統」には、これまでの漢和辞典への根源的批判が含まれている。文字創成時の資料甲骨文、発展成立期の資料金文を通して、字源の研究、字形学は成立するという基礎的判断である。

第6章 あらゆる時代のためのテスト

「四つのテスト」を書いてから約2年経った頃、「四つのテスト」の内容がどうしてこのようになったのか、その必然性が自分でもはっきり分かる時が来た。

すでに記したように「四つのテスト」は、神に対する祈りの結果もたらされたものだが、その悉くは聖書のエレミヤ書に書かれていたのだ。だから、エレミヤ書の中に書かれている「四つのテスト」の原版である神御自身の御言葉に出合った時、私は大して驚かなかった。エレミヤは旧約聖書に出て来る偉大な予言者の一人で、この世での人生を終わらんとする間際、神御自身から人々に述べ伝えよと、直接お告げの御言葉を賜ったのだ。即ちエレミヤ書第9章23-24節にこうある。

「主はこう言われる。『知恵ある人はその知恵を誇ってはならない。

力ある人はその力を誇ってはならない。

富める者はその富を誇ってはならない。

誇る者はこれを誇りとせよ。すなわち、

さとくあって、わたしを知っていること。わたしが主であって、地に、いつくしみと公平と正義を行っている者であることを知る

ことがそれである。わたしはこれらの事を喜ぶ』と」

『いつくしみ』は「好意と友情を深めるか」と「みんなのためになるかどうか」という2つの問いの中に含まれている。

『公平』は「みんなに公平か」という問いの中に含まれていることは、一目瞭然である。

『正義』は「四つのテスト」の第一番目の問い「真実かどうか」に含まれている。だから、「四つのテスト」について考える時、考え、言葉、行ないすべてに應用する時はいつでも、神が喜ばれる「これらの事」を実際に成就しているのである。

アメリカで「四つのテスト」を初めて用いた高等学校は、ウイスコンシン州のケノシアにある。今日では幾つかの州においては大部分の高校でこの四つのテストを用いている。「四つのテスト」を学ぶ時期が早ければ早いほど、それだけその人の生活は良くなるだろう。

最初に高等学校で「四つのテスト」を用いたのは日本人で、それは、ウイスコンシン州のケノシア高校で使われる大分以前のことだった。

日本では物事をまず肯定的に、次に否定的に言うのが常である。例えば「真実かどうかー嘘ではないのか」

「みんなに公平かーみんなに不公平ではないのか」

「好意と友情を深めるかー敵をつくることはないか」

「みんなのためになるかどうかーみんなの害にならないか」

「四つのテスト」は、人々の良いところを益々良くするのだ。正しい言動の前提となる思考力を育むのだ。

偉大な女流詩人エラ・ウィーラ・ウィルコックスは、人生で思考力が、いかに大切かを次の詩の中で真に見事に言い表わしている。

思考がどれほど力のあるものか誰も知らない。

愛する時も、憎む時も。

思考もひとつの生き物で、

その目には見えぬ翼で伝書鳩より素早く飛ぶ。

思考は宇宙の法則に従い、

それぞれの思考に相応しい現実を創りだ出す。

また思考は道をとって返し、

忘れ去った事柄を思い起させる。

『誰も知らない』より

四つのテストの歌

四つのテスト

作曲 相模原南R C
水谷暢宏

庄重に、力を込めて

しんじつか どうか みんなに こうへいか

こういと ゆうじょうをふかめるか

みんなのために なるかどうか

みんなのために なるかどうか

第一回の「四つのテスト」炉辺会合の案内状のとおり、肩のこらない、気軽に参加するよう、思いつくまゝ、手あたり次第、資料を用意しました。記録をかねて、紹介します。

1. ロータリーの人々 古屋野鐘雨 本書12P
2. 四つの原則を心がけて 本書12P
3. 我が自叙伝 ハーバート・J・テラー 本書12-13P 24-25P
4. 神戸ロータリークラブ1950-51年度記録 本書14P
5. ロータリーの金看板職業奉仕 1972-73年度第366地区職業奉仕
6. 「四つの奉仕」のための例話集 抜粋 本書17P 委員会本書15P
7. ロータリーの友記事の抜粋 本書15P
8. 四つのテストの歌 本書26P
9. 崩壊過程の国家-フィリピン 選択60年7月号

8カ月の後の2月25日には、マルコス大統領がマニラから脱出することになると思わず、マニラロータリークラブとの兄弟クラブ締結を話題にしながら、フィリピンのことを話し合いました。

10. 1985-86年度地区協議会記録 職業奉仕部会

田中丸カウンセラー 先程私が申しましたが、「言行はこれに照らしてから」ということが余り意識されていないようですね。四つのテストが、ペラペラ口からでも、言行をこれに照らさなければ、空念仏になるのではないのでしょうか。言行をこれに照らし初めて、これは生きる訳です。その点をクラブの方々にも、しっかりお伝え頂きたい。

鈴木君 唐津 私共が勉強した所によりますと、第1の真実かどうかと2、3、4は切り離して考えなさいと習いました。例えばある人が自分はこの事が公平だと思うんだと言っても、利害の対立する立場から見ると、私に対しては不利じゃないかという事になったり、この四つのテストは社会一般には万能ではあり得ない。これ

が前端的に使えるのは、同一企業内においては、目的が一つですから、社長から社員、用務員に至るまで、この四つのテストが全面的に使えるが、社会一般には使えないと、私はこのように習いました。カウンセラー おっしゃるようになかなか難かしいですね。これは。だからその辺は、ある程度常識的に考えていかんと。いくらか矛盾があるかも知れないが、とも角これは大事な事であるという、その辺もご理解頂きたいと思うのでございます。

11. 酒道・四つのテスト ロータリーの友 柳井 皿田千蔵

茶をのむのに茶道があるように、酒をのむのにも酒道がある。

1. 自己の酒量は真実か、どうか。
2. 酒席は公平か、どうか。
3. 酒つきあいは友情を深めるか、どうか。
4. 酒をのむことは皆んなのためになるか、どうか。

酒についての言行は、これに照らしてからやればよい。

1. (真実) 自己の酒量を知る。これが酒道の根本である。自己の適量を知ったら、酒は必ず百薬の長となる。酒を百薬の長たらしむるには、酒がうまい間に寝酒をやる余裕をのこして、しばし中止する。
2. (公平) 昔から無礼講といわれるように、お互いに酒の上では平等である。酒は上下を忘れさせ、横の連帯を強め、仲間意識を高める。しかし自意識過剰になり大声になったり自慢ぶるようになったら赤信号だから中止する。
3. (友情) お互いに仕事がすんだら、一杯いくか、と酒盃をかたむける。これほど胸襟を開き友情を深めるものはなかるう。しかし適量を過し理屈ばかり、ぐちっぽくなったら中止するほうが友情も長続きする。
4. (皆んなのため) 昔から下戸の建てたる蔵はないというように、のめる人は社会に役立つ実力者が多く、酒税納税で国家財政にも寄与している。酒は薬のように適量を守れば社会を明るくし皆んなのためになる。

第2回「四つのテスト」炉辺会合 資料

1. 聖書 本書18P
2. Fairとは何か 重原久美春(会員) 本書19P
3. 佐波宣平 海の英語 本書20P
4. 五島ロータリークラブ週報

金曜日の夜1時間半、平山徳一先生を司会に、野田久雄、中村繁春、嵩則雄の各先生がパネラーになり「四つのテスト」パネルディスカッションが行われました。出席者20名程度。

- 真実かどうか 真実かどうかという具体的な事例として、アメリカでカップ屋の誇大広告を廃し真実を訴えて成功した話がある。(野田君) 四つのテストの日本語訳はニュアンスが違ふ。誠実と訳すと我々も到達できるような内容のものとなる。例えばガン患者本人に実態を知らさない、隠してやるのが真実だという日本的な考え方。本人にも知らせ、家族も協力して看護にあたり死なせるというヨーロッパ的な真実の考え方。宗教的或いは国民性でも真実は受けとめ方が異ってくる。(嵩君)
 - みんなに公平か 例えば商品に単価をつけても、1個買う人と100個買う人との対応の違いが出てくる。我々の日常の人間関係の中でこうあるべきだととらえて公平だということがわかる。(中村君)
 - 好意と友情を深めるか やはり自分が善意と友情を相手にぶっつけ、胸襟を開いて真の友ができるのではないか。(嵩君)
 - みんなのためになるかどうか 一つの物を売るにしても、人の役にたつものであってもこれは買うお客様が価格、品質など気にいらねばならない。買ってもらって社会性が生かされることになる。社会性を持たなければ企業は存続しない。
- まとめ 四つのテストは一つ一つを考えてきたが、総合的にまとめて判断するともっと幅広いものになっていいのではないか。(山下弥太郎君)

1. 随筆ちいさい隅 大佛次郎 六興出版

おさらぎ小路案内 永井龍男

昨年六月八日に、東京をはじめ神奈川県も梅雨期に入ったと報じられた。三十年前に建てた私の小さな住居は横丁の奥にあるが、いずれ梅雨が上ったとなれば、例年の通り縁先きに日除けを差出し、障子襖を仕舞って家中すだれをかける習慣になっている。このすだれは、小宅が出来上った年の夏に大佛さんからお祝いに頂戴した。それも、京都で有名なすだれ造りの職人が、大佛さんに頼まれたとあって訪ねて見え、一寸法を取った上での仕事だったから、思いがけぬ好意と共に、粗末に扱えないことは勿論である。

2. 明治のおかあさん 入江相政

中学の時、私は寄宿舎を出て、通学することにした。昼の弁当は、いつも母が造ってくれた。学校には仕出し屋が弁当を入れていた。友達はみんなそれを食べていた。私もそれにしたかった。母に、そのことをいったが、許してくれなかった。母が許さなかったのは、中学生のくせして、金を払って、仕出し屋の弁当なんか食べるのが、気に入らなかったのだ。その証拠には、大学には行って、昼「本郷のどこで食べた。今日はあすこにした」などという私の話を、母はいつも目を細めて聞いていた。

3. 新聞投書 草野源一郎 諫早ロータリークラブ会員

テレビの郷土ロケドラマ「親戚たち」が終わった。初めてのロケということで、市、文化協会、それに一般市民も、当初はいささか戸惑いと気恥ずかしさを覚えたようであったが、製作スタッフ、俳優の皆さん、市民一体の郷土愛、自然愛、人間愛が大きく波打って、充実したドラマだった。今後各地でかかる郷土ロケドラマが展開されることを望みたい。

4. フェアウェイの神サマーゴルフ 作家・山際淳司 翼の王国

アメリカでゴルフを楽しんだとき、一度、偶然、神父さんとラウンドしたことがあった。そのうちに“God damn!”に近いニュアンスの言葉がひんぱんに出てくるようになった。つまりスコアが果しく崩れはじめたわけである。「神父さんでもそういう言い方をするんですね」と、いうと、彼はニヤッと答えてくれた。「もちろんですよ。だって、フェアウェイに神サマがいると思いますか？ もしいるのならば私のスコアはもっとよくなっている。ここにだけは神はいない。したがって私の悪態も聞いていない」 そういつて笑い飛ばしてしまうのだった。

5. おそれを知らぬ真正直さ - 高校野球 作家・山際淳司

いったいどういう顔をした高校生が、とてつもない逆転劇の主人公になったのかと思って、ネット裏にある選手たちの集合場所に行くと、ごくごくあたり前の、フツの顔をした高校生がそこにいたりする。そこが面白い。彼らは、一瞬、夏の光りのなかを駆け抜けるのだろう。自分たちのために用意されたこの上なくエキサイティングな舞台に立ち、輝きを帯びる。そのとき「おそれを知らぬ真正直さ」も発揮される。

6. 会田雄次 リーダーの条件 新潮文庫

米作は麦作と比べ同一面積では十数倍のカロリーを創り出す。当然その地は高密度人口地帯になる。日本ではとくにそうなる。戦国時代から私たちは今日のヨーロッパ諸国の数倍の人口密度の社会に住んできた。3DKに大家族が住むのと同じ影響を受けてきたとってよい。ヒステリックにならざるを得ず、今日でもその条件から抜け出していないわけである。ヒステリー体質の人間は勝気人間である。勝気人間の本質は劣等意識である。その不安から、たえず他人に負けまい、人におくれをとるまい。損をしまいとあせっている。勝気人間は流行に弱く、権威権力に弱く、貴方は正義人だ真面目だとおだてるとすぐ調子にのる。

7. 会田雄次 日本人の生き方 講談社学術文庫

戦前東北大学で教鞭をとったカール・レーヴィットは著名な哲学者ですが、明治以後の近代日本を評して「近代という着物はそれを着る人の体質をも変化させるおそろしい文化であり、それも致命的な病を持つ文化なのに、日本人は喜んで無邪気にも身につけてしまった」と指摘しています。

8. 山本夏彦 二流の愉しみ 講談社文庫

以前日の丸は賛美された。今は呪詛される。だから私は、その両方を信じないのである。私はそれをとがめているのではない。のど元すぎれば熱さを忘れるのが、人の常だと言っているのである。それなのに、ひとり国歌と国旗に対する恨みだけは忘れないというのは、自分の言葉ではあるまい。隣人の言葉だろう。以前、戸ごとに旗をたてたころは、立てなければ怪しまれた。今はだれも立てないから、立てるほうが怪しまれる。人はあたりをうかがって、大ぜいに従う存在である。隣近所が立てれば立てるし、立てなければ立てない。それだけならいいが、昔立てたころは、立てない者に立てよとすすめ、なお立てないと「村八分」にすること、今立てるなとすすめ、なお立てる者があると「村八分」にするに似ている。立てる人も立てない人も別人ではない。全く同一人物だと、私は手をこまねいてこのなん十年ながめてきた。

9. 靖国神社 日本のサンクチュリア 選択 1985年9月号

10. 土着権力 住友グループの巻

昭和3年に社則として制定された「営業の要旨」 第1条 我住友の営業は信用を重んじ 確実を旨とし以て其の鞏固隆盛を期すべし。第2条 我住友の営業は時勢の変遷、理財の得失を計り弛張興廃あるべしと雖も、苟も浮利に趨り軽進すべからず。

第4回「四つのテスト」炉辺会合 資料

1. 工夫に追いつく老化なし ゲスト大塚末子きもの学院院長

戦後、平等意識が国民の間にすっかり浸透し、いまはすべてが公平だという意識が強いですね。その平等の中で、長男の嫁が「なぜしゅうとの世話を自分だけがしなければならぬのか」と嘆いています。そもそも、人間ほど、子供が親にエサを運ぶ動物はいなかったんじゃないでしょうか。鳥なんか、あれほど親鳥にエサを運んでもらっているながら、自分が成鳥になると巣を飛びたち、みんないなくなってしまうよ。親鳥のことなんか少しも記憶にないんじゃないありませんか。人間も次第に、鳥や動物なみになってきたということでしょうか。

2. 龍門社 選択 1985年11月号

ここに紹介する「龍門社」は、渋沢栄一の遺徳を顕彰する機関だが、日本で最も古い勉強会の一つである。正式には渋沢青淵記念財団龍門社だが、その理事の関本毅氏がいう。「昔、渋沢家にはたくさんの書生が居候していたそうなんですが、長男の篤二氏が、皆で意見発表の訓練をやる、といい出し、書生さん達と一緒に勉強会を開いたのが龍門社の始まりといわれています。渋沢栄一という人は、もしその気になれば、三井や三菱の比ではないほどの財産を残せた人といわれています。しかし彼は飛鳥山の邸宅しか残さなかった。それも自分が死んだ後は、自分の思想を最もよく理解している龍門社にすべてを寄贈する、という遺言状まで残している。ここに渋沢栄一という人物の偉大さの一端が偲ばれると思いますね。」

3. 真理は笑いを通じて語るものだ オーデン

これは最近もっとも気に入ったドイツのジョーク。小さなリリーが、生まれ初めて虹を見て、「あれはなんの広告なの？」

4. 二十一世紀を展望して 林健太郎 ロータリーの友 60年12月号
ドイツの実存哲学者カール・ヤスパースは「歴史の起源と目標」という著者で、大衆社会の人間の精神状況を分析し、技術を中心にして高度に機械化した社会で、それがマスとして現われると人間性の喪失を招来する、と述べています。

そうでない社会、そうでない集団とは何か。ヤスパースは、独立した個人の共同性によって形成される社会、その共同社会はfolkつまり民族であると言っております。民族という概念は、人間の文化を基礎にした共同社会で、しかもその文化の背後には宗教があります。それは超越的存在を考えずに人間の生活はありえないからです。いうまでもなくヨーロッパでは、その文化の基礎になっていたのはキリスト教でそれは個人主義にもとづく近代文明においてもそうでした。その個人主義が大衆社会状況におちいったのは、その本来の基礎であった宗教性を失ったことによるところが大きいのです。

従ってこれはヨーロッパではキリスト教の精神の復活を意識しますが、同時にそれは自分だけが優れた宗教であるというキリスト教自身の排他性・非寛容性に対する反省をも要求するものであります。

追加資料 ロータリーを考える 第266地区P.G. 飯沼剛 述を参考

ハーバート・テラーの原文は、長崎クラブに残されているように、of the things we think, say or doです。1984年版の英文の手続要覧の職業奉仕の項には of things と the が消失しています。ロータリー手帳1984-85版では the がないのに、85-86版には the が入っています。

ある英語通の方に伺いますと、英語にも文語体と口語体があって、文語体では“the”が入り、口語体では“the”が入らないというのであります。

昭和60年 7月11日

会員各位 <第1回> 14名

長崎ロータリークラブ
四つのテスト委員会

--- 言行はこれに照らしてから ---

1. 真実か どうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか

ご承知の四つのテストです、初めての試みで 第1項目に焦点をしばらく、肩のこらない炉辺会合を思いました。

名物のチャンポンで軽く一杯、夏の夜を楽しく有意義に過ごしましょう --- 浴衣がけでも気軽にご参加下さいますようご案内申し上げます。

記

1. 日 時 昭和60年8月2日(金) 18時~(約1時間半)
2. 場 所 四海楼
3. 会 場 3000円(当日会場受付へ)

◎7月25日(木)最終例会までにご返事下さい。

昭和60年 9月 2日

会員各位 <第2回> 14名

長崎ロータリークラブ
四つのテスト委員会

---言行はこれに照らしてから---

1. 真実か どうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか

ご承知の四つのテストです、おかげさまで8月は第1項目について和やかな炉辺会合を開催いたしました。次会は第2項目に焦点を絞り、また肩のこらない残暑の夕べを楽しく過ごしたいと思います。お気軽にご参加下さいますようお願い申し上げます。

記

1. 日 時 昭和60年9月12日(木) 第2例会日
18時～ (約1時間半)
2. 場 所 四海楼
3. 会 場 3,000円(当日会場受付へ)

◎おりにかえしご返事下さいますようお願いいたします。

電話連絡でもけっこうです。 ☎ 21-1009

昭和60年10月24日

会員各位 <第3回> 8名と(1名山田受付)

長崎ロータリークラブ
四つのテスト委員会

---言行はこれに照らしてから---

1. 真実か どうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか

ご承知の四つのテストです、8月は第1項目、9月は第2項目に就いて、和やかな炉辺会合を開催いたしました。

10月は一と休みして、次回は第3項目に焦点を絞り、秋の夕べをさわやかに名物のチャンポンで一杯、どうぞお気軽にご参加下さいますようお願い申し上げます。

記

1. 日 時 昭和60年11月7日(木) 第1例会の日
18時～ (約1時間半)
2. 場 所 四海楼
3. 会 場 3,000円(当日会場受付へ)

◎ご出席の方は、折り返しRC事務局(☎) 21-1009

富永までご連絡下さい。

昭和60年11月28日

会員各位 <第4回> 10名

長崎ロータリークラブ
四つのテスト委員会

--- 言行はこれに照らしてから ---

1. 真実か どうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか

ご承知の四つのテストです、おかげさまでいよいよ最終の第4項目について、例により和やかな炉辺会合を開催いたします。師走の忙しい時期ですが、一夕をチョット間を持ってお集り下さい。

記

1. 日 時 昭和60年12月12日(木) 第2例会日

<12月5日を第2例会日に変更>

18時～ (約1時間半)

2. 場 所 四海楼

3. 会 場 3,000円(当日会場受付へ)

◎おりにかし事務局富永さんまで出欠至急ご連絡下さい。

☎ 21-1009

出席者名簿

昭和60年	8月2日	9月12日	11月7日	12月12日		
	(1)	(2)	(3)	(4)		
1) 福田 實	①	×	×	×		1回
2) 藤田 智久	×	×	③	×		1回
3) 波多野 顕	①	×	③	×		2回
4) 平井 謙介	①	×	×	×		1回
5) 平田 正穂	①	②	③	④		4回
6) 広瀬 範造	①	②	×	④		3回
7) 石丸 太郎	①	×	×	×		1回
8) 岩永 光治	×	②	×	×		1回
9) 加藤 駿二	×	②	×	×		1回
10) 菊谷 元資	×	×	×	④		1回
11) 北川 正吉	①	②	③	×		3回
12) 益田 耕作	×	×	×	④		1回
13) 諸谷 義武	×	②	×	×		1回
14) 西村 金造	①	②	③	④		4回
15) 太田 隆	①	②	③	×		3回
16) 柴田 忠三郎	×	②	×	×		1回
17) 下田 好行	×	②	×	×		1回
18) 塩田 元久	①	②	③	④		4回
19) 園田 武彦	①	×	×	×		1回
20) 高木 忠一郎	①	×	×	④		2回
21) 田中 圭介	×	②	×	④		2回
22) 田中 満	①	②	③	④		4回
23) 田中 益雄	×	②	×	×		1回
24) 上杉 千郷	①	×	×	④		2回
25) 山田 康生	×	×	③	×		1回
	14名	14名	9名	10名		47名

益田耕作殿寄贈

02
916
ロータリー文庫

あとがき

私には「四つのテスト」開眼の体験があります。昭和56年度の週報は、ハーバート・テラー氏の我が自叙伝の抜粋を連載しました。そのとき若い日のテラー氏の体験が、真実かどうかを第1項においたと読み、ハッとさせられました。

四つのテスト委員長は、毎月第1例会で斉唱の音頭をとります。交換学生、米山奨学生にお願いもします。

昭和61年度の8月から4回、第1例会日の夜に会員経営の四海楼で、四つのテスト炉辺会合をよびかけてみました。塩田元久ロータリー情報委員長の協力を得て、出来るだけの資料を集めました。おかげで、延47名の会員が楽しく、話し合いがより深い理解へと進むことができました。

この記録によって、より新しい理解が生まれま

「四つのテスト」セミナー
発行日 昭和61年4月23日
発行者 長崎ロータリークラブ 0958-21-1009
四つのテスト委員会
印刷所 石田コピーセンター株式会社

95. 2. 27 寄